

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	常設展示事業	会計	一般会計	事業No.	827	施策順No.	29-015
		事業種別	政策・その他	予算科目	10-5-6-11-7		
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり			課等名	美術博物館		
施策	29 ふるさと意識の醸成			事業期間	開始	1	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	飯田下伊那の地域住民					A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない						
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)						19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		圏域住民数							177000	177000	177000	177000	
	意図	1 常設展示の内容を定期的に更新し、新しい情報を織り込んだ展示内容として充実させる。 2 調査研究の成果を市民と共有する。											
対象をどう変えるか		事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)					19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		観覧者数(常設展示のみの有料観覧者数、実際の観覧者数は総入館者数の1/2程度)					803	677	563	700	907	700	A
		全展示資料に対する更新した資料の比率(%)					5	10	7	7	7		
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		常設展示のみを目的に来館する市民は全体の来館者数に対して多いとは言えないが、特別展や企画展と併せて観覧する来館者が多かった。目標は達成できたが、展示内容に新鮮さが欠ける点で、早期の大規模更新が望まれる。											

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<ol style="list-style-type: none"> 常設展示室の全面改装は長年の懸案であるが、当面は小規模な展示更新を定期的に行い、新たにロビー空間を有効活用する。 常設展示室の全面改装に向けて計画案を企画する。 展示資料の更新 展示解説シートの作成 トピックス展、ロビー展示の充実 		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 展示資料の更新 展示資料やパネルを追加・交換 <ul style="list-style-type: none"> 近世史関係 汎用性の高い電子掲示板(インフォメーションボード)を導入し映像番組を公開「飯田お練りまつり」「飯田下伊那の獅子舞」 老朽化した機器類のメンテナンス・一部改修工事(人文展示室地形模型)。 展示解説シート「鳩ヶ嶺八幡宮 獅子頭」(A4カラー 10,000部)を作成。 トピックス展、ロビー展示の充実。 <ul style="list-style-type: none"> 「トレース図から読み解く聖徳太子絵伝」(2010.4~2011.2) 「南アルプススリレ展覧会」(主催:南アルプス世界自然遺産登録長野県連絡協議会 2011.2.16~2.27) 「伊那谷自然史発表会 ポスター発表」(2011.3~2011.4) 	<ol style="list-style-type: none"> 展示解説シート数 展示資料の更新数 トピックス展、ロビーでの展示回数 	<ol style="list-style-type: none"> 1種類 3回 3回
	23年度実施計画	<ol style="list-style-type: none"> 展示資料の更新、交換。 老朽化した機器類のメンテナンス。 展示解説シートの作製 テーマ未定(A4カラー 10,000部)を作成予定 ロビー展示 	<ol style="list-style-type: none"> 展示解説シート数 展示資料の更新数 トピックス展、ロビーでの展示回数

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		1,324	1,320	1,119		
計(A)		1,324	1,320	1,119		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			1,320			

4 事業に対する市民や議会の意見

1「数年前に来館したときと変わっていない」という常設展示室のマナー化を指摘する声がある。
2 意外と貴重な資料が展示されているのに目立たなくて勿体ないとの声もある。
3 常設展の電気スイッチ等がたびたび故障していることに対して苦情が寄せられている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	1 地域を知る 2 地域を誇りに思う	施策の成果指標又はムツス指標	1 飯田の自然・歴史・文化を学んでいる市民の数(延べ人数) 1 ふるさとを誇りに思っている市民の割合(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	飯田市を中心とする伊那谷という地域の特性を、飯田市内外の利用者に知っていただけるよう、ソフト・ハードの両面で情報を発信し続けた。		
	後期に向けた課題	リニヤ新幹線に先立ちより地域を知り、他へ発信する必要性が高まっており、これにどう応えるかが問われている。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	比較的自由に空間利用できる本館ロビーを常設展示の一部として捉え、また展示解説シートを充実させるなどソフト面に重きを置いた。		
	後期に向けた課題	ロビー空間の展示物が一部固定化しており、色褪せなど老朽化がみられる。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	全面改装が中止となり、老朽化した設備のメンテナンスが行えるだけの最低限の予算を計上してきた。		
	後期に向けた課題	機器類の老朽化が目立ち、システム自体を丸ごと取り替えなければならない状況が今後発生する。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	常設展示のみ観覧の場合は大人1人あたり150円で、県内の類似施設(長野市立博物館300円、諏訪市博物館300円など)と比べても安価である。		
	後期に向けた課題	年間を通じて無料観覧の期間が増え、受益者負担の原則が崩れつつある。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	おもな主体は観覧者。状況把握は困難だが、なかには主体的に展示内容を学びアウトプットする利用者も存在すると思われる。		
	後期に向けた課題	一方的な情報提供ではなく、相互に学びあうような場が提供できるとよいか。		
全体を通じて	4年間の振り返り	平成20年度に予定されていた全面改装が中止となり、ここ数年は老朽化した機器類のメンテナンスが事業の中心となっていた。		
	後期に向けた課題	22年度末にプラネタリウムがリニューアルし、飯田市の新たな顔として期待が高まる場所である。その番組制作の幅が格段に広がり、内容によっては自然展示室だけでなく人文展示室との関連づけも可能となった。プラネタリウムと常設展示を一体のものとしてとらえて事業展開を考えることで、市民に美術博物館の新たな活用法を提供できるのではなかろうか。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--